



木下 美也子 議員
(無会派)



一般質問

■香りの害・化学物質過敏症について

アンケートで実態を把握することは考えられないか！

質 広報活動にて被害の原因や対応について一定の理解が進んだとして、個別の被害事例の把握とその対応が求められると考える。

他県の例で人工的香料（化学物質）によって体調不良を起したことの質問に、「ある」が1.4%、香りの害・化学物質過敏症を「存じかの質問に、「聞いたことがあり、どんな問題かも知っている」が10%弱という結果であり、知らないということは、自分自身や周りの人にも何が起っているのかさえも分からないということになる。

具体的なアンケートを通じて実態を把握し、その対応を検討していく考えはないか。

答 市では、化学物質過敏症の症状で苦しんでいる方に対する理解と協力をいただくために、市広報やホームページでの掲載、ケーブルテレビ放送、本庁市民ロビーやパトリアにおいてポスター掲示を行い、周知を図ってきた。教育委員会においては、インクを使用しないなど、化学物質過敏症に配慮した教科書の配付に関する情報提供も行っている。

今後は、子供や保護者への周知に努めながら、学校において実態を把握するためのアンケートの実施に取り組んでいきたい。



江曾 ゆかり 議員
(無会派)



一般質問

■災害関連死について

救われた命を守っていくための対策を！

質 本市では災害関連死が30人以上認定されており、審査待ちの件数もあることから、今後も増加が見込まれる。災害関連死を防ぐ対策強化について、どのように取り組んでいるのか伺う。

答 災害関連死を防ぐ対策強化としては、地震のショック、ストレス、生活環境の激変による肉体的精神的負担、これらを軽減するために、建設型応急仮設住宅や賃貸型応急住宅、みなし仮設、これらを中心に被災者見守り、相談支援として、七尾市社会福祉協議会の地域支え合いセンターで健康状態の確認を含め、訪問による巡回を続けているところである。

在宅の被災者においては、保健師が個別の訪問活動や、地域での教室の開催等により、健康相談や保健指導を行っている。また、高齢者のみの世帯のほか、同居の家族が日中働きに出してしまい高齢者が留守番をしているような高齢者世帯、このような要配慮者に対して、見守りセンサーを兼ねた24時間の緊急対応により急病等の早期発見、駆けつけができるよう、緊急通報装置の設置も現在進めているところである。

今後は、仮設団地に建設を進めている集会所を活用したサロンの開催や健康相談などを計画し、今回の災害により仮設などでの生活を余儀なくされている中で、少しでも心身への影響が軽減できるよう対応を進めていきたいと考えている。